

登録コード	HM105801	開講年度	2026				
授業題目	分子病態学特別研究				担当教員	青山 琢磨	
英文授業名	Research Thesis in Molecular Pathophysiology				副担当	沢村 達也	
単位数	10	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・不定期		
講義室			授業形態	演習	備考		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	(授業の達成目標)	
	2026HM医学分野初, 2025HM医学分野初						
	【専攻】医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能				⇔	病態生理学における深い知識・卓越した研究技能を身に着ける	
	【専攻】医学・保健学研究において基礎・応用・臨床の枠を越え、課題の本質を見抜き解決方法を見出す洞察力				⇔	病態生理学において基礎・応用・臨床の枠を越え、課題の本質を見抜き解決方法を見出す洞察力を身に着ける	
	【専攻】医学・保健学研究の専門分野近傍の課題に対して新たな知見・技術を生み出す応用力				⇔	病態生理学の知識・技能を生かし、周辺領域の課題についても新たな知見・技術を生み出す応用力を身に着ける	
(2)詳細/Detailed information	研究を行う技能を習得し、研究計画の立案、実施、研究結果のまとめから考察、論文化まで自ら行う。						
(3)授業の概要/Overview of course	生理学的・病態生理学的事象の根幹となるような一般原理を見出すことに挑戦する。あらゆる手段で情報収集を行い、自問自答する能力を養い、実験の立案・計画・実施を自ら行うことで、生体反応を先入観なしに分析する能力を養い、論文作成を行う。						
(4)授業計画/Course plan	主に心臓・血管・血液およびそれらを構成する細胞を用い、生化学的・分子生物学的・遺伝学的手法により、これらの生体恒常性と病態生理に果たす役割を解析する研究指導を行う。						
(5)成績評価の方法・基準/Grading/evaluation method/evaluation criteria	(i)他者を充分説得できるだけの研究結果を得るための手段が講じることにより一定の実験結果を得ることができ、 (ii)実験結果から科学的意義を引き出すことができ、 (iii)予定した研究結果を得るだけでなく、その後の展望について洞察することができ、(iv) 意図しなかった成果までも見逃さず研究計画を発展させるとともに、得た結果のプレゼンテーションにより伝達・説得・感動を与えることができることを目指す。 この4項目すべてが達成されれば「卓越している（秀）」。3項目を満たしていれば「かなり上にある（優）」。(i)と(ii)ができていれば「やや上にある（良）」。(i)のみ満たされていれば「水準にある(可)」。						
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep and review work/Textbook(s)/Reference work(s)	ただ研究計画をなぞるだけではなく、それをいかに発展させるかについて、充分に自分の頭を使って考えた上で、自分なりの展望を描いて教員との議論に臨むことを期待する。						
(7)質問,相談への対応/Questions and requests for advice	随時質問を受け付ける。						
(8)授業の形式/Course format	実験の立案、実施、考察を教員とともにに行い、研究の実施の仕方、考え方をon-the-jobで習得する。						